

前期 期末考査 問題用紙

問題1 下記の経営コンサルタントと企業の原価計算担当者との会話の中の()に当てはまる語句を解答用紙の解答欄に記入しなさい。また、三社とも大量生産をおこなっている工場の原価計算担当者である。(思考・判断・表現)

① 原価計算担当者A：「当工場は、飲料水を生産しております。ペットボトル入りの炭酸飲料を生産しています。製品の種類は、500 ml・1 l・2 lの3種類です。」

経営コンサルタント：「それならば(ア)総合原価計算を適用した方が良いと思います。」

② 原価計算担当者B：「当工場は、パンを生産しております。当社の看板商品であるクリームパンとチョコレートパンの2種類を生産しております。」

経営コンサルタント：「それならば(イ)総合原価計算を適用した方が良いと思います。」

③ 原価計算担当者C：「当工場は、創業以来の当社の主力商品である牛丼のレトルトパックのみを連続して生産しております。」

経営コンサルタント：「それならば(ウ)総合原価計算を適用した方が良いと思います。」

問題2 工場全体で1つの配賦基準(総括配賦)をおこなう場合におこる問題点について解答欄に記入しなさい。(思考・判断・表現)

問題3 等級別総合原価計算を採用している大阪製作所株式会社で、解答用紙に示すとおり製品が完成した。ただし、完成品の総合原価は¥5,100,000である。等級別総合原価計算表を作成し、仕訳を示しなさい。(知識・技術)

問題4 次の資料によって、解答用紙の単純総合原価計算表を完成しなさい。(知識・技術)

- ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入されるものとする。
ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

資料

①生産データ	月初仕掛品	600個	(加工進捗度50%)
	当月投入	<u>3,900個</u>	
	合計	4,500個	
	月末仕掛品	<u>1,500個</u>	(加工進捗度60%)
	完成品	<u>3,000個</u>	
②月初仕掛品原価	¥315,000		
内訳：素材費	¥228,000	加工費	¥87,000
③当月製造費用	¥1,026,000		
内訳：素材費	¥702,000	工場消耗品費	¥39,000
労務費	¥195,000	経費	¥90,000

解答はすべて解答用紙に記入すること

問題 5

愛知製作所は、個別原価計算を採用し、当月において製品α（製造指図書# 1）と製品β（製造指図書# 2）を製造した。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。（思考・判断・表現）

- (1) 9月中の取引の仕訳を示しなさい。
 (2) 製品α（製造指図書# 1）の原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	150個	@ ¥2,500	¥ 375,000
工場消耗品	440 "	" " 50	¥ 22,000
仕 掛 品（製造指図書# 1）			¥2,976,000

（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
 iii 賃金の消費高の計算には、作業時間1時間につき ¥1,200の予定賃率を用いている。
 iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
1年間の製造間接費予算額	¥7,920,000	¥8,080,000
1年間の基準操業度	13,200時間	20,200時間

- v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

9月5日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	450個	@ ¥2,600	¥1,170,000
工場消耗品	2,800 "	" " 50	¥ 140,000

11日 製品β（製造指図書# 2）の注文を受け、素材500個を消費して製造を開始した。

15日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥165,000	保 険 料	¥180,000
-------	----------	-------	----------

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額	¥3,237,500
うち、控除額	所得税 ¥259,000 健康保険料 ¥130,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は740個であった。よって、消費高を計上した。

（間接材料）

- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書# 1	1,400時間	製造指図書# 2	1,200時間
間 接 作 業	500時間		

- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥130,000を計上した。

- ④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥168,000	保 険 料	¥30,000
減価償却費	¥190,000		

- ⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書# 1	100時間	1,300時間
	製造指図書# 2	900時間	300時間

- ⑥ 製造間接費を各部門に配分した。

第1製造部門	¥544,000
第2製造部門	511,000
動力部門	100,000
修繕部門	88,000

- ⑦ 補助部門費を次のとおり各製造部門に配賦した。

第1製造部門	¥60,000	第2製造部門	¥128,000
--------	---------	--------	----------

- ⑧ 製品α（製造指図書# 1）200個が完成した。

- ⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,700,000を計上した。

- ⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

- ⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

解答はすべて解答用紙に記入すること